

## 地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。  
今号では、東北地域ブロックおよび関東地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

### 東北地域ブロック から

東北地域ブロック担当理事  
三浦 剛（東北福祉大学）

東北地域ブロックでは、第17回研究大会（山形大会）が熊坂聡会員（宮城学院女子大学 教授）を実行委員長に、「地域共生社会の実現に向けて」を大会テーマとして、平成29年7月23日、山形県総合社会福祉センターにて開催された。大会参加者は会員31名、非会員12名、計43名であった。

午前中の基調講演では、後藤真一郎厚生労働者 社会・援護局 地域福祉課 地域福祉専門官より、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の設置経緯や包括的な支援体制づくりについて講演をいただいた。東日本大震災からの復興、過疎化など東北地方特有の課題がある中での地域共生社会を考えるためのご示唆と最新の情報を得ることができた。

そして、午後には自由研究発表の他、山形県内で取り組まれている包括的支援体制構築事業について、後藤専門官、長岡芳美山形県社会福祉協議会 事務局長、熊坂聡会員による鼎談と研究方法セミナーが行われた。この鼎談では、福祉ニーズの多様化・複雑化を踏まえて、多機関協働による社会資源の創出が求められていくことなど、地域福祉に関する学びが深められたとの感想を聞くことができた。

また、東北地域ブロック大会では初めてとなる研究方法セミナーでは、前地域ブロック代表理事の都築光一会員（東北福祉大学 教授）が講師を務めた。都築会員は研究の進め方を5つのポイントにまとめ、若手研究者や大学院生にとっては、改めて社会福祉学研究のあり方を学ぶ機会となった。

最後に、自由研究発表は19演題行われ、実証的な研究が多かった。分科会では発表者と参加者との間で活発に議論が繰り広げられたが、実証研究ではより正確な研究方法、分析方法をふまえる必要があり、今年度初めて行われた研究方法セミナーの必要性が高まった。今後、ブロックとしてこのセミナーを継続、発展させていくことを考えたい。

ブロック学会誌編集委員会では、大会での発表を投稿の条件としている。今回発表した会員は、その研究内容を深め、ブロック学会誌への投稿を奨励し、東北地域の社会福祉の発展につなげることを期待して、大会を終了した。

## 関東地域ブロック から

関東地域ブロック担当理事  
久保 美紀（明治学院大学）

関東地域ブロック部会（略称：関東部会）の活動の柱のひとつに、研究大会の開催があります。2016年度は、2017年3月11日に明治学院大学白金校舎で、約120名のご参加を得て開催しました。ソーシャルワーク専門職のグローバル定義において、indigenous knowledgeの重要性が明記されましたが、それを手がかりに大会テーマを「当事者固有の文化にもとづいた社会福祉の構築」に設定しました。

基調講演として、美学（身体論、現代アート）をご専門とする東京工業大学リベラルアーツ研究教育院の伊藤亜紗氏に、「目の見えない人は世界をどう見ているのかー身体論から考える障害ー」というテーマで、お話しいただきました。それに続くシンポジウムでは、まず、東北学院大学の本間照雄氏に、「震災によって失われた文化とその構築」をテーマに、宮城県南三陸町被災者支援の事例を通してご発題いただき、次いで、日本社会事業大学のヴィラーク・ヴィクトル氏に、「LGBTQ等コミュニティ固有の文化とソーシャルワーク」をテーマに、性の多様性とそれに対応すべき文化的な力量の基礎枠組みを中心にご発題いただき、その後の議論を経て新たな知見を得ることができました。東日本大震災が発生した日の大会開催となりましたので、シンポジウムの途中ではありましたが、発生時刻の14時46分に、犠牲になられた方々に哀悼の意を表し黙祷を捧げました。

自由研究発表では、研究報告部門13報告、萌芽的研究報告部門9報告、実践報告部門1報告、合計23の報告がありました。本部会が、若手研究者や実践者の研究活動の支援に重点を置いているところから、大学院生の報告が多いのが特徴ですが、ベテランの研究者の報告もあり、それを通して学ぶ機会になったのではないかと思います。残念ながら、研究大会奨励賞については、該当者はありませんでした。この結果を跳ね返すべく、2017年度以降にぜひチャレンジしていただきたいと思います。研究大会抄録集は、本部会ホームページに掲載しておりますので、参考にしてください。なお、2017年度の研究大会は、2018年3月4日（日）に明治学院大学白金校舎で開催します。プログラムが確定しましたら、同ホームページでご案内します。みなさまのご参加をお待ちしております。

機関誌『社会福祉学評論』（電子ジャーナル）には、2016年度中に9本の投稿論文を、査読を経て、掲載することができました。併せてご覧いただければ幸いです。

関東部会のホームページ：<http://www.jsssw-kanto.jp/>